



TITLE:

2001年度インゼミ報告 VS高崎経済大学矢野ゼミナール

AUTHOR(S):

熊野, 聖史

CITATION:

熊野, 聖史. 2001年度インゼミ報告 VS高崎経済大学矢野ゼミナール.
岩本ゼミナール機関誌 2002, 6: 76-78

ISSUE DATE:

2002-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/56902>

RIGHT:

2001年度インゼミ報告 VS 高崎経済大学矢野ゼミナール

文責：熊野 聖史

テーマ決定までの流れ

インゼミのテーマを決定するために、インゼミ委員（熊野、大塚）は、まずゼミ生にどのようなテーマを扱いたいのかというアンケートを行った。これが、実質的なインゼミ活動の始まりで、5月のGW明けのことだった。ここで、以下の4つが浮上してきた。

- ①小泉政権の構造改革について
- ②セーフガードについて
- ③EUの通貨統合について
- ④アジア通貨危機後の金融政策について

この4つのテーマを矢野ゼミ側に示したところ、矢野ゼミ側からもセーフガードを扱いたいという返事をいただいた。夏休み前には、セーフガードを扱うという大枠が決定した。

8月30日から城崎で行われた夏合宿では、セーフガード班（以下SG班）は、「中国WTO加盟の衝撃（鮫島敬治編）」を勉強した。とりあえず、今回のSGはほとんど中国を狙い撃ちにしたものであったので、まず変わり行く中国経済を概観することは重要だろうと思って、この本を選んだ。

9月中の矢野ゼミとの交渉によって、テーマは「セーフガード発動は国益に適うか否か」、ということになった。そして、矢野ゼミが肯定側、岩本ゼミが否定側に立つことも決まった。しかし、日中両国の国益にするのか、日本の国益にするのか、国益をどう定義するのか、議論の範囲を実際に発動された3品目にするのか、さらに拡大するのか、など議論の種は尽きなかった。結局、「2001年4月23日にねぎ、生しいたけ、豊表に発動されたセーフガードは日本の国益に適うか否か」という正式なテーマと、国益の定義を「経

済学でいう消費者・生産者の利益に加えて農業の持つ多面的機能から得られる生活者の利益であり、これらは現代の世代だけではなく将来の世代に渡っても、普遍的に享受される利益も含んでいる」と決まったのは、当日まで残り1ヶ月を切ってからであった。

立論作成

後期が10月から始まり、最初は週に1回、2回ぐらいの割合で勉強会をしていたが、10月も後半に入るにつれ、だんだんと焦りが生じてきたこともあり、勉強会の回数も増えていった。11月の第1週に1回目の立論交換を行い、両校の論点のポイントが明らかになった。

岩本ゼミ側（否定側）

- ①国産品と輸入品の棲み分けを進めるべきで、SGによって低価格の輸入品そのものを排除すべきでない
- ②セーフガードの発動条件である、予期されなかった輸入急増が証明されていない
- ③産業の構造調整の痛みは、補助金などの国内政策で解決するべき
- ④報復関税を受けた自動車産業などの被害

矢野ゼミ側（肯定側）

- ①安全性や、農業の多面的機能といった、農業の特殊性
- ②生産者レベルにおける構造調整
- ③国策として取り組まれている日本農業の構造調整

立論や資料作成では、SG班の班員が岩本ゼミ側の論点を分担し、資料を探してくるという形を

採った。しかし、公的機関（農水省、経済産業省、財務省など）が出している資料は当然のことながら、SG 肯定の色合いが強いものばかりで、なかなか我々に有利な資料を見つけることができなかった。様々な HP などを見ていけば、当然 SG に反対しているものもあったが、私見に偏っているものも少なくなかった。よって、我々は公的機関が出している統計を細かく調べ、自分たちに有利なデータを探すとともに、貿易モデルによって、セーフガードのような関税政策よりも、直接的に国内政策をとることの方が望ましいということを実証する、というアプローチを試みた。

当日の議論

当日の議論を一言でまとめると、お互いの論点を潰しあうという形になったと思う。岩本ゼミ側は、矢野ゼミ側が主張する農業の多面的機能が、今回 SG が発動された3品目にはほとんど存在しないことを、耕地面積の資料から示し、また安全性についても矢野ゼミの議論に矛盾があることを指摘した。一方で、岩本ゼミ側が主張した SG ではなく国内政策をとるべきである、という主張も矢野ゼミ側はかなりつぶされてしまった。これは矢野ゼミ側が日中貿易協定や農業協定など法的な部分を細かく勉強していたのに対して、岩本ゼミ側がほとんど手を付けていなかったことが大きかった。今になって振り返ると、やはり相手の議論をつぶすということもディベートでは大切だが、自らの主張の正しさを証明するという点にもっと力を注いでおくべきだったのではないかと考えている。岩本先生からは、京大は農業の多面的機能を金額換算するなどして、もっと深く分析を行うと、より議論が深くなる、という講評をいただいた。また、SG という題目は同じでも、両校のアプローチの方法がかなり異なっていたこともあり、議論があまりかみ合わなかった、

という反省もある。これは、交渉段階でもっと細かく話し合いをしておけば（自分ではしたつもりだったが）、もう少し一点に集中した、まとまった議論ができたのではないかと感じた。結果は2-1で岩本ゼミの勝ちとなったが、それは大きな問題でないように思えた。

全体を通しての感想

まず、SG というテーマについてであるが、非常にタイムリーなテーマであり、個人的には面白かった。しかし、そのタイムリーさゆえに、多くの問題も生じた。まず、現在進行中のテーマであったので、事態を客観的に分析した本や資料などではなく、どうしてもインターネットの統計資料などを頼りに進めていくしかなかった。また、進行中の事柄に対して、その是非を議論することの難しさも感じた。つまり、SG の是非を本当に判断できるのは、発動されてから少なくとも数年が経った上で効果を分析して初めて分かるもので、現時点で議論することには限界があったように思われる。もうひとつは、政治的側面である。今回の暫定セーフガードは参議院選挙前に発動されており、自民党の選挙対策であることは明白だった。つまり、経済的側面からのみ今回のセーフガードを議論するだけでは、不十分なのではないかと思った。しかし、現在進行中の事柄を扱えばこのような混乱があることは最初から予想できたが、それでもあえて政治経済的な問題を取り上げ、それに対してひとつの見解をまとめたという点では、価値があったと思う。また教科書に書かれているような、理論的な勉強ではなく、実際に多くの資料に当たって、現実の経済、政治について調べたということは貴重な体験になった。

勉強会については、11月中になると毎日のように行っただけで、メンバーにとっては結構な負担

になったのではないかと思います。それぞれの都合もあり、なかなか全員がそろうことはできなかったし、最初は集まっても無駄話に時間を費やしてしまうこともあった。だが、直前になると焦りもあって長時間になっても集中力が続いてきた。しかし、勉強会は正直、柴田さん、藤嶋さん、藤中（康）さん、清水さん、といった先輩方の活躍抜きには語れない。班長の段取りが悪く煮詰まったときも、経験豊かな先輩方が多くのアドバイスをくれたり、模擬ディベートの相手をしてくださったりもした。また司会、審判等も引き受けていただいた。どうもありがとうございました。

最後に SG 班のメンバーへ一言

まず2回生、勉強会でも積極的に発言して議論を盛り上げてくれた杉さん、黙々と資料に当たって分析力を披露してくれた南井君、理論ですばらしい輝きを見せたロー君、それぞれの実力の高さに圧倒されたというのが正直な感想です。実際にインゼミをはじめてやってみて、勉強になったこと、また疑問を感じたこと、いろいろあると思うけど、良くがんばってもらいました。

3回生、河村君には理論的な面を完全にお任せしてしまったけど、妥協せずに考え抜く姿は2回生にも良いお手本になったのではないかな。森本君にはいろいろなデータを集めてもらったけど、農業への理解、知識の深さには助けられました。櫻本君にはケーススタディーをお願いし、側面からサポートしてもらいました。最後までみんなに協力してもらってなんとかやり遂げたって感じです。ありがとう。

さらに、様々なアドバイスを下さった岩本先生、資料のコピーや会場作りを快く引き受けてくれた金融班の皆さん、高崎経済大学の皆さんにもお礼を申し上げます。

また、同じインゼミ委員として、前期からチーム

ワーク良く (!?) 活動し、私の至らない多くの点をカバーしてくれた大塚さん、ありがとう。

ディベート後のコンパで、高経の交渉担当だった長谷川君が、「来年は後輩を鍛えて、リベンジに来ます」と約束してくれました。来年の矢野ゼミはきっと一層手強くなることでしょう。こっちもうかうかしてられません（笑）。新3回生の皆さんは、この経験を生かし、新2回生とより素晴らしいインゼミを築いていってください。両校の有意義な交流が、末永く続くことを祈ります。